

伐採林の100%活用を目指せ！

～ 林地残材の低コスト搬出システムの開発 ～

研究の背景・目的

私たちの生活に不可欠な紙製品は、木材を小さく刻んだ木材チップから生産されています。

現在、柱材などを生産するため森林を伐採する際に、チップ原料として活用できる端材(根元・先端部分・曲がり材等)は利用されずほとんどが林内に残されています。

国内産の木材チップへの需要が高まっているなか、これら林地残材を伐採現場から製紙工場へ低コストで搬入できるシステムが確立されれば、森林資源の有効利用が可能になると同時に、森林所有者の収入アップにもつなげることができます。



林地残材(端材)

研究方法

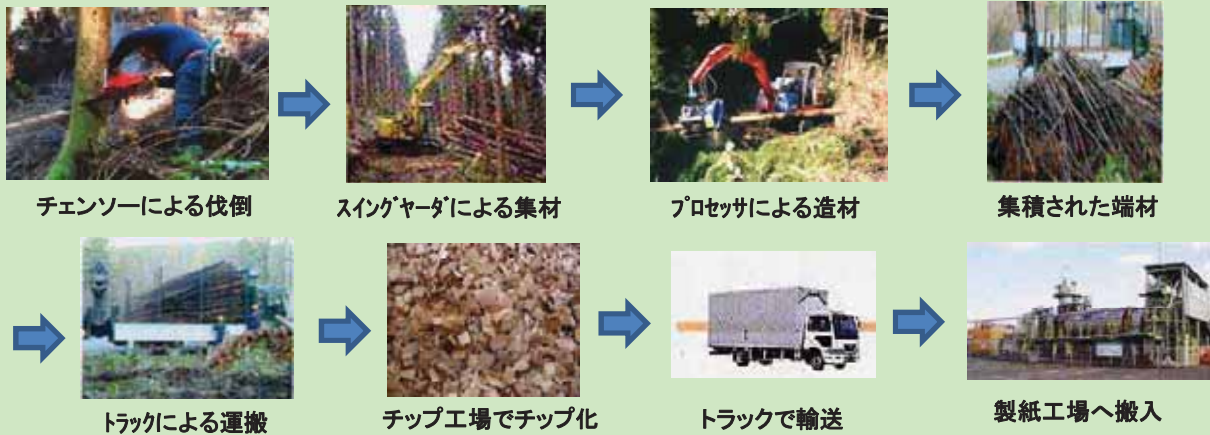
① システム検討会の開催

学識経験者、木材生産業者等の意見を聴き、本県に適した作業システムの検討を行います。

② 低コスト搬出実証試験及び聞き取り調査

スギ、ヒノキ人工林の伐採現場からチップ工場に搬入されるまでに要する経費についてコスト調査を行い、低コスト化が可能となる作業方法・機械配置・搬出路整備などの因子について分析します。また、県内の業者に対し、個々の搬出システムについて聞き取り調査を行います。

● 林地残材搬出システムのイメージ



研究の現場移転(成果-技術-の移転先・対象の量など)

主伐、間伐それぞれに適する林地残材の低コスト搬出システムを確立・提示することにより、それぞれの木材生産現場に適した、未利用資源の低コスト搬出技術の定着・向上が図られます。また、県内針葉樹チップ生産量の増加が期待されます。



MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

所属グループ 森林保護育成グループ

担当研究者 杉原 雅彦(すぎはら まさひこ)

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207 問い合わせ先 0854-76-3822

E-mail chusankan@pref.shimane.lg.jp

試験研究課題名: 未利用木質資源の低コスト搬出技術の開発 (研究期間: 21~22)